

担任だからこそできる，仲間とのかかわりを大切にし，
自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を生み出す英語活動の在り方
～英語ノートを活用して～

本校の英語活動の取組の紹介

学校名	安八郡神戸町立南平野小学校
実施状況(学年・回数)	・低学年「ゆとりの時間」を活用して1回25分で実施 ・高学年「外国語活動」を1回45分で実施
年間時数	年間35時間(1・2年は年間17時間)
指導体制	・第1・2・3・4年：HRTとALT，VETによる3人でのTT指導 ・第5・6学年：HRTとALTによる2人でのTT指導 (HRT=学級担任 ALT=外国人指導助手 VET=地域ボランティア講師)
その他	岐阜県教育委員会指定 児童生徒の未来を育む研究開発事業(平成17・18年度) - 小中一貫の英語教育を通して -

1 前年度までの実践について

- ・一単元ではなく，複数の単元から内容を選択し，実態に合わせて英語ノートを活用し，児童の実際の生活場面により近付けた活動を工夫し，積極的に仲間とコミュニケーションを図れるような授業の流れなどを工夫した。
- ・学級担任が，児童のアンケートや観察等から，かかわりと英語活動について児童理解をし，それに基づいた題材を開発・設定した。
- ・学級担任が児童の個々の伸びを把握しながら，その児童に応じた評価ができるよう「評価カード」を工夫した。

2 英語活動を通して目指す姿

(1) 英語活動を通して願う児童の姿

- ・積極的に伝え合うことができる姿
- ・思いやりの気持ちをもちながら，互いを認め合うことができる姿
- ・ALTや異文化をもつ人々との交流を通して，文化に対する理解を深めることができる姿
- ・仲間と気持ちを伝え合う心地よさや喜びを味わうことができる姿

(2) 第5学年までの児童の姿

- ・毎時間の学習過程の流れや行動の仕方が定着し，自信をもって活動に参加できた。
- ・英語活動での仲間とのかかわりを通して，普段の学校生活でも誰とでもかかわれるようになった。
- ・ALT's timeでのALTの話を何とか理解しようとする姿が見られた。
- ・相互評価を通して，互いに認め合う姿がみられた。

3 本年度の重点実践内容

児童の実態に基づいた，英語ノートを活用した言語活動と指導計画の工夫
仲間とのかかわりを大切にしながら自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする指導方法の工夫
思いやりのあるかかわりを大切にされた自己評価・相互評価の工夫

(1) 指導計画

実施学年	6年	指導時期	10月上旬
題材名	修学旅行タウンを道案内しよう		
指導目標	道案内をする活動を通して、修学旅行で訪れる建物の名前や道案内の際に使用する相手の行動を促す英語の表現に慣れ親しむとともに、お互いの理解を確かめ合うためにそれらをはっきりと表現することの大切さに気付き、仲間と協力しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 (全5時間)		
主に扱う語彙や表現	What's this? It's a ~. Where is ~? Turn right/left. Go straight. Stop. That's right. No, sorry. Close. Which side? Right/Left side. Kiyomizu Temple/Kyoto Tower/Todai Temple/Nara Great Buddha/Nara Park/Houryu Temple/Kinkaku Temple/Ginkaku Temple/Nijo Castle/hotel/hospital/Sanjusangendo Temple/Arashiyama Park/Ryoan Temple/Suzumusi Temple/Kyoto Station/hospital/bus stop/police station		
教材・教具	建物・施設の絵カード, 修学旅行タウンのマップ, 建物・施設のシール		

評価の観点	評価規準(実現したい具体的な姿)
言語や文化についての気付きや体験的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良・京都の建物が日本語と同じ表現であることに気付き, 考えようとする。 ・英語での道案内に興味を持ち, 進んで道案内をしようとする。
英語による積極的なコミュニケーションの態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや道案内をする活動に進んで取り組み, 相手の道案内や質問に反応し, 対応する。 ・はっきり指示をして, コミュニケーションを図ることの大切さに気付き, 自分から発信する。
音声や基本的な表現への慣れ親しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・道案内をするを通して, 英語の音や表現に慣れ親しむ。 ・Where is ~ ? という表現を理解して, 相手に質問する。

単元指導計画

時間	目指す姿	主な活動内容	主に扱う語彙や表現	言語と文化 コミュニケーションの態度 音声や基本的な表現への慣れ親しみ
1	修学旅行で訪れる建物などの表現が, 日本語と同じであることに気付き, 京都や奈良が世界的に有名な場所であることを知ったり, ゲーム活動を通してその表現に慣れ親しんだりする。	修学旅行で訪れる建物の表現を知り, その表現を使ってゲーム活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきゲーム ・指差しゲーム ・建物ビンゴゲーム 	What's this? It's a ~. Kiyomizu Temple/Kyoto Tower/Todai Temple/Nara Great Buddha/Nara Park/Houryu Temple/Kinkaku Temple/Ginkaku Temple/Nijo Castle/hotel/hospital/Sanjusangendo	奈良・京都の建物が日本語と同じ表現であることに気付き, 考えようとする。

			Temple/Arashiyama Park/Ryoan Temple/Suzumusi Temple/ hospital/ Kyoto Station/ bus stop/police station	
2	「～は、どこですか。」と尋ねる表現や道案内に必要な方向や動作を指示する表現を知り、ゲーム活動を通してそれらの表現に慣れ親しむ。	場所を聞いたり、教えたりする言い方に慣れ親しみ、それを使ってゲーム活動を行う。 ・ロボットゲーム ・スイカ割りゲーム	Where is ~? Turn right/left. Go straight. Stop.	英語での道案内に興味をもち、進んで道案内をしようとする。 Where is ~ ? という表現を理解して、相手に質問する。
3	「どちら側ですか」と尋ねる表現とそれに答える表現を知り、ゲーム活動を通してそれらの表現に慣れ親しむ。	どちら側にあるかを聞いたり、答えたりする言い方に慣れ親しみ、それを使ってゲーム活動を行う。 ・コインゲーム ・カードチェンジゲーム ・案内ゲーム	Which side? Right/Left side. Where is ~? Turn right/left. Go straight. Stop.	英語での道案内に興味をもち、進んで道案内をしようとする。 道案内をすることを通して、英語の音や表現に慣れ親しむ。
4 5	道案内を通して、相手に正しく伝えるためには、方向や動作を指示する英語をはっきりと表現することが大切であることに気づき、仲間と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 (5 : 本時)	修学旅行タウンに行き、英語だけを使って道案内クイズをする。 ・道案内クイズ	Where is ~? Turn right/left. Go straight. Stop. That's right. No, sorry. Close. Which side? Right/Left side.	ゲームや道案内をする活動に進んで取り組み、相手の道案内や質問に反応し、対応する。 はっきり指示をして、コミュニケーションを図ることの大切さに気づき、自分から発信する。

(2) 本時の授業について

児童の実態に基づいた、英語ノートを活用した英語表現の活動と指導計画の工夫

ア 英語表現を用いた活動の充実

本校は、単学級のため学年ではなく、学年部ごとに学年や学級の実態に合わせて指導計画を柔軟に工夫している。本題材は、児童の実態に合わせて、前題材である「クイズ大会をしよう」(英語ノート1)で慣れ親しんだ“ That's right. ”“ No sorry. ”“ Close. ”などの語彙や表現や、1年から英語活動で慣れ親しんできた表現を使って、英語ノート2「道案内をしよう」をアレンジして活用した。また、英語や表現への苦手意識を感じている児童が多い実態から、使用する英語表現の精選を行い、児童にとって難しい語彙や表現は見直した。

イ 指導計画の工夫

6年生のこの時期は、間近に修学旅行をひかえており、外国人観光客の多い奈良・京都で、道を尋ねられる可能性もある。その際に方向を示す表現 right/leftなどは、非常に役立つ表現であることを伝え、児童が目標をもって活動ができると考え、修学旅行を素材にし、さまざまな相手

に道案内をしたり，相手の道案内で目的の場所まで実際に動いたりする活動を通して，仲間とかかわる機会を多く設定するようにした。実際の修学旅行では，外国の方との交流として，サインをもらう活動を計画した。

仲間とのかかわりを大切にし，自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする指導方法の工夫

ア 児童の実態を踏まえた指導計画の工夫

本学級の児童は，保育園からの単学級であるため人間関係が固定化し，新しいかかわりを築くまでに時間がかかる傾向がある。また，思春期に入り，表現することの恥ずかしさとこれまでの表現に対する失敗経験が合わさって，自分から表現をしながら仲間にかかわっていくことを敬遠しがちである。そこで，1対1で仲間と関わる活動を2時間扱いで仕組むことで，どの子にも十分に表現をさせるようにした。

イ カードやシールの工夫

できるだけ多くの仲間とかかわりたいという児童の思いを引き出すために，「道を尋ねる」役が持つカードや到着すると得られるシールは，児童が描いた絵を活用しながら作成した。

ウ 3つの負荷を与えた指導方法の工夫

一つ目は，Activity 1での「道を案内する」役が案内する目的地までの道のりより，Activity 2での目的地までの道のりが少し複雑になるようにした。これによって，案内する側は，道を尋ねた仲間を答えの場所まで導くのに自分の思いをよりしっかり伝えることの大切さに気付くことができるようにした。また，案内される側も相手の伝えたいことを受け止め，分からなくなったときは，聞き返すなど，繰り返し伝え合いながら活動できるようにし，コミュニケーションの大切さをより深く理解させるようにした。

二つ目は，Activity で「No Japanese」という負荷を与え，何とかして相手に伝えようとする，何とか相手の伝えたいことを分かるようとする思いをもてる子どもに育つように工夫した。

三つ目は，これまでに子どもに身に付いている指導過程から脱却するようにした。これまでは，活動の方向性を確かめるためにHRTとALTが良い例と悪い例を対比させながらDemonstrationとして児童に示してきた。しかし，本時は，前時に道案内をしていることもあり，まず，Activity 1をさせてから，児童の様子を見て，Step-up-timeで焦点的に評価を入れて，後半の活動の方向性が確かめられるようにした。

思いやりのあるかかわりを大切にしたい自己評価・相互評価の工夫

ア 評価カードの工夫

教師からの評価の前にカードを使い，自己評価をする。その後，全体交流での相互評価を取り入れ，自他のよさをとらえることができるように評価の仕方を工夫した。カードには，自分のがんばりと友達のよい姿が書けるように工夫した。

イ 思いやりのあるかかわりを大切にしたい評価

全体交流の中で児童が発表する際，HRTは，「Clear Voiceで，なぜ良かったのか。」などと，児童が仲間とどのようなコミュニケーションを図ったのか，より深く考えられるように理由を聞くようにして，どのようなコミュニケーション成立したのか，評価していくようにした。

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師(HRT・ALT)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Greetings ・ Alt's Time ・ Today's aim 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 ・ ALT と HRT が演じる修学旅行での道案内の場面を見る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">英語だけで修学旅行タウンを道案内しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを確認する。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">Friendly:相手の様子を見て何とか正しい場所まで導こう,正しい場所まで到着しようと仲間とコミュニケーションを図ろうとする姿</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">Clear Voice:自分の言いたいことや思いをはっきりとした声で表現する姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 ・ ALT と HRT で道案内の場面を演じ,今日の学習につなげる。 ・ HRT は,本時のめあてを意識させ,黒板に掲示する。 	<p>ALT と HRT が実際の道案内の場面を演じることで,学習内容への興味や修学旅行で活用しようとする意欲を高める。</p> <p>HRT は,前時に児童が記入した自己評価をもとに,相手の思いを温かく受けとける,相手に何とか伝えようとすることを意識付け,具体的なコミュニケーションのめあてをもつことができるようにする。</p> <p>建物・施設の絵カード 修学旅行タウンのマップ 分からない場合に説明を聞き返したり,相手の答えに反応をしたりして,積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を見つけて認める。</p> <p>「尋ねる」役が持つカードや到着するともらえるシールを工夫し,できるだけ多くの仲間と関わりたいという思いを引き出す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Activity part 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「案内する役」や『修学旅行タウン』の地図を持ち,そこからその場所までの道案内をする。「道を探ねる」役は,町を見ながら「Where is ~?」と言う表現を用いて道を聞く。そして,確認しながら案内通りに動いて移動する。「案内する」役は後について移動する。途中分からなくなったり,答えが間違ったりしたら,もう一度案内を聞き直す。正しい場所に着いたら,シールをカードにはる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRT は,相手の様子を見ながら積極的にコミュニケーションを図ろうとしている姿を見付ける。 ・ ALT は,道案内をしながら,Clear Voice のよい児童を見付ける。 	<p>建物・施設の絵カード 修学旅行タウンのマップ 分からない場合に説明を聞き返したり,相手の答えに反応をしたりして,積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を見つけて認める。</p> <p>「尋ねる」役が持つカードや到着するともらえるシールを工夫し,できるだけ多くの仲間と関わりたいという思いを引き出す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Step-up time 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分からなくなったら Clear Voice で聞き返したり,Close.などの表現を用いて励ますなど Friendly のよい姿,頑張っている姿を知り,自分も同じように後半に取り組もうとする見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRT は, Friendly のよい姿(間違ったときにもう一度案内をしたり,分からなくなったときにもう一度聞き直したりする姿)を紹介したり,もっとよくするポイントを伝えたりする。 ・ ALT は,Clear Voice のよい姿(はっきりとした声で話しかけている姿)を紹介する。 	<p>音楽が鳴ったら,元の場所に戻り話が聞けるようにする。</p> <p>評価を焦点化し,児童一人一人が後半の活動の方向性が確かめられるような評価の工夫をする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Activity part2 Comments time 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コースを複雑にして案内する。 ・ 評価カードを使い,仲間の良かった姿や自分が頑張ったことを書き,全体交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT は,Clear Voice の視点で,HRT は, Friendly の視点から,担任にしか気付けないことで具体的な児童の姿で価値付ける。 	<p>授業者からの評価の前に,お互いの良かった所を交流させ,積極的に多くの仲間とかわったり,自分の思いを表現したりしたことに対する達成感を高めることができるようにする。</p> <p>Today's aim 達成によって高まったコミュニケーションの姿が評価できるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Greetings 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 	<p>Today's aim 達成によって高まったコミュニケーションの姿が評価できるようにする。</p>

5 実践の検証と中学校の英語教育との連携や関連

(1) 具体的な児童の姿からの考察

学級担任が児童の実態に合わせて使用する英語表現を精選したり，仲間とかかわる時間を多く確保したりしたことや修学旅行を題材にして指導計画を工夫したことによって，アンケート結果に変化が見られた。本題材を実施する前は，外国語活動に対して「楽しくない」と答えていた児童が10名いたが，実施後のアンケートでは，全員の児童が「とても楽しい」「楽しい」と答えていた。また，その理由も「友達と交流できたから」や「たくさん会話できたから」などとコミュニケーションを図れたことが楽しい理由に変わってきた。

(本題材実施前のアンケート)	(本題材実施後のアンケート)
とても楽しい・・・7人	とても楽しい・・・31人
楽しい・・・18人	楽しい・・・4人
あまり楽しくない・・・7人	あまり楽しくない・・・0人
楽しくない・・・3人	楽しくない・・・0人

Activityで，“No Japanese”という負荷を与えることによって，相手の様子を見て何とか正しい場所まで導こう，正しい場所に到着しようとしている語彙や表現を駆使しながら，仲間とコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。また，Activity2では，Activity1より内容(道案内のコース)の難易度を高め，負荷を与えたことによって，途中で“OK?”と確かめたり“One more please.”と聞き返したりと仲間とかかわる表現を使うことが多くなり，コミュニケーションの大切さをより意味のあるものとして体験させることができた。

評価カードを使っただけの自己評価・相互評価では，全体交流の中で，“なぜ，Clear Voiceがよかったのか。”“なぜ，Friendlyがよかったのか。”児童の発言につなげて，担任が聞き返し評価していったことで，どんなコミュニケーションが成立したのか評価することができた。また，それを毎時間続けることによって，コミュニケーションの観点で評価カードに自分や友達のよかった所を記入する児童が増えた。

(2) 中学校の英語教育の連携や関連

伝える内容(場所)，伝える英語表現“Where is ~?” “Turn right/left.” “Go straight.”，伝える方法(案内する役の立ち位置・地図)をきちんと理解させると，積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿が見られることが分かった。

児童は，本題材で，“Where is ~?” “Turn right/left.” “Go straight.”などの語彙や表現を使いながら，興味関心の高い修学旅行タウンで実際に道案内をしたり，前題材で，“What's this?”を使って，自分たちでつくったオリジナルのクイズを出し合ったりして，コミュニケーションの場面を理解した。この小学校での活動が，中学校につながっていくと考える。

6 資料

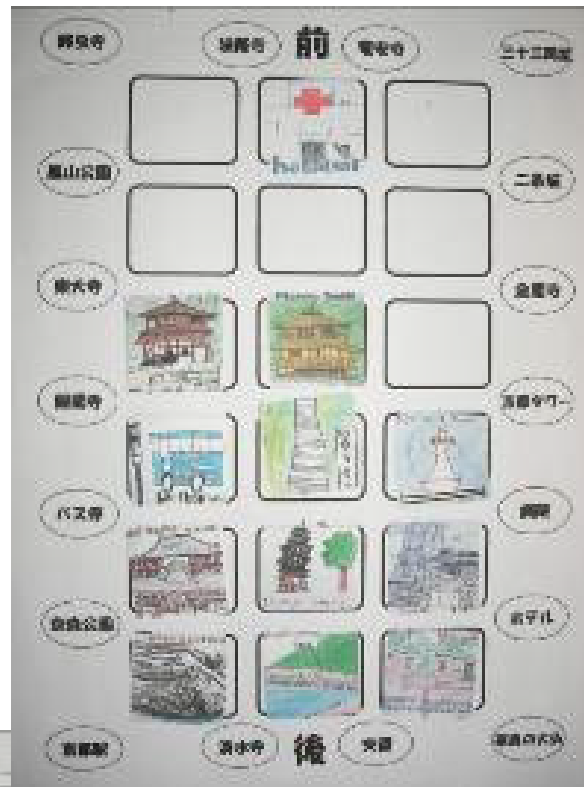
資料1 道案内ゲームの方法

- 手順
- ア 机を並べ、その上に建物カードを裏向きに置いて作った『修学旅行タウン』で道案を行う。
 - イ 「道を尋ねる」役と「案内する」役に分かれる。「案内する」役には、1カ所ずつ場所が割り当てられる。
 - ウ 「尋ねる」役は、一人で「案内する」役のステーションに行き、その「案内する」役の児童に割り当てられた場所を尋ねる。
 - エ 「案内する」役は、『修学旅行タウン』の地図を持ち、その地点から目的の場所までの道案内をする。「尋ねる」役は、町を見ながら道案内を聞く。
 - オ 「尋ねる」役は、道案内の通りに動き、移動する。「案内する」役は後について移動する。途中、分からなくなったり、答えが間違ったりしたら、もう一度案内を聞き直す。
 - カ 正しい場所に着いたら、シールをカードにはる。

使用する教材・教具

- ア 『修学旅行タウン』のマップ
- イ 建物・施設の絵カード
- ウ 建物・施設のシール
- エ シールをはるカード
- オ 評価カード

『修学旅行タウンのマップ』をもとに、限られた時間の中で、友だちとのかかわりを大切にしながら活動します。



項目	評価項目	Clear voice	Friendly	評価	コメント（友だちのよい言や褒めかかしはり）
イ	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
ウ	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
エ	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
オ	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	
	絵や写真で描いた建物の名前がわかる。	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	

本時の授業では、Clear Voice と Friendly という項目について3段階で評価をします。さらに、友だちのよいところを見つけてコメントを書きます。

資料2 実際の活動中の場面

